

## 農業技術クラブの記者による現地共同取材

12月17日(金)、施設資源部土質研究室が実施している「超高耐久性ため池工法の長期耐久性試験」に関して、農業技術クラブに所属している日本農業新聞・農業共済新聞・全国農業新聞・(社)家の光協会・化学工業日報社の記者および技術会議・松田研究総務官と田中広報班長が参加して、現地共同取材が行われました。取材は、所内の試験ため池において行われ、農工研からは説明者として小前所長・毛利施設資源部長・堀土質研究室長および土質研究室の研究員3名が参加しました。



(堀室長から、研究概要の説明)

まず、堀室長が、低コストで簡易な「ため池の豪雨対策技術」の効果について、これまでに実施した人工降雨装置を用いた実証試験結果等を交えながら分かり易く説明しました。



(降雨実験を再現)



(試験ため池の上で、説明を受ける参加者)

その後、実証試験のビデオを放映し、引き続き実際に降雨実験を再現しました。記者の皆さんからは随所に鋭い質問も出され、来年度以降の本格導入に向けた取り組みに一層弾みがつく取材となりました。

企画管理部 情報広報課長 古澤祐児